■国際連帯税アドバイザリー・チーム第1回会合議事録

■2019年2月25日開催（日本リザルツ東京事務所）

■参加者

国会議員、アカデミア、グローバル連帯税フォーラム、国際機関、企業

■内容

国際連帯税とはどのようなものであるか。金子宏東京大学名誉教授は、自身が以前に『国際人道税』という名称で国際航空運賃への課税を提案し、その後、2006年にフランスで国際連帯税として実現し、その税収はマラリア根絶などの費用に充てられているといった、国際連帯税の経緯を説明した。

アドバイザリー・チームの設立趣意書案と規約案について質疑応答が行われ、同チームが設立された。アドバイザリー・チームは国際連帯税創設を求める議員連盟のもとに作られ、「意見を述べるときは組織の代表ということではなく、あくまでも個人の有識者としての意見ということで良い」といった確認が行われた。

国際連帯税をめぐる今後の動きについて、C20のワークショップ・国連事務総長の訪日・ハイレベル政治フォーラムの機会を活用するといった提案があった。国境なき医師団日本は「UNITAIDを通じて実際に国際連帯税を活用して薬価を下げようとしているが（経済発展して）この枠組から外れてしまった国々は自分たちで高い価格で薬を買わなくてはいけなくなってしまう。このように、トランジションが上手くいっていない国に対して国際的な支援が必要」と問題提起した。